

保護者のみなさま

箕面市立第二中学校
校長 俵積田 武志

学校教育自己診断の報告について

向春の候、保護者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。平素は本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年(2022)年11月、保護者のみなさまを対象に箕面市内同じ内容で、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの提出数は昨年度と同様で回収率は約86%でした。集計結果及び考察を以下にまとめましたので、ご報告いたします。今後も、一人ひとりの子どもたちの良さを認め伸ばしていけるよう、保護者のみなさまとの連携を大切に、教職員一同、力をあわせて頑張っておりますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

★集計について

質問は30項目で、以下の選択肢で回答を求めました。

A) よくあてはまる B) ややあてはまる C) あまりあてはまらない

D) 全くあてはまらない E) わからない

質問をグループに分けて、3年間の肯定的回答(A+B)%の集計を並べました。

■教育方針、全般的なことに関して

設問	項目の内容	R2	R3	R4
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	83	78	79
2	子どもは、自分の学級が楽しいと言っている	80	84	81
10	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている(教育目標を含む)	63	70	76
26	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている	46	56	62

設問1「学校に行くのを楽しみにしている」と設問2「自分の学級が楽しいと言っている」に関しては、80%程度の肯定的回答がありました。コロナ禍の3年間、子どもたちは制限がある中においても「学校や学級が楽しい」と思えるよう努力していたのだと改めて思っています。今年度はコロナによる行事の中止はありませんでした。今後、新たな社会のルールのもとで子どもたちが「学校や学級が楽しい」と感じ取れるよう、すべての教育活動において安心できる学校づくりを進めていきたいと思っております。

設問26「校長のリーダーシップが…」に関しては、設問10「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」はもとよりさまざまな学校に関する情報を二中ブログ(二中ホームページ)で記事として掲載することや、トモリンクスを活用して情報を配信することを、引き続き、積極的に努めたいと思っております。

■保護者・地域に関して

設問	項目の内容	R2	R3	R4
11	学校は、保護者・地域の願いに応えるよう努力している	66	71	77
12	学校は、保護者の相談に応じてくれる	67	75	82
20	学校は、家庭への連絡や情報提供を行っている	75	84	87
22	学習の内容や進度(行事)等を懇談や学級(学年)通信などによって知ることができる	70	74	83
23	デジタル連絡帳によって、学校との連絡がスムーズになった	—	40	59
28	電話での問い合わせや学校を訪問した際、担当者が明確で迅速かつ丁寧な対応が行われている。	72	75	78
29	学校、学年、学級に決められているルール等は、子どもの状況にあった適切なものになっている。	58	64	69

設問11・12・20・22「保護者の相談などご家庭との連携」に関しては、肯定的な回答の割合が上がっています。引き続き、保護者・地域の願いを大切にしながら日々の教育活動に努めてまいります。今後、国が打ち出している「部活動の地域移行」についても市の動向や学校の実情などをお伝えしていければと考えております。また、学習進度等の情報発信に関しては、「日頃の勉強の取り組み方に変化を」としてテスト2週間前から学年だよりで大まかなテスト範囲を提示し、1週間前に確定版を提示することにしました。さらに、日頃の学年・学級のとりくみの様子などについても学年だより(学校ブログを含む)や学級通信などでお知らせしております。

設問23「デジタル連絡帳によって…」に関しては、トモリンクスでの欠席連絡など保護者の方々と連絡がスムーズになってきたと感じています。これからも個人情報等に注意を払いながらうまく活用していくことができればと思っています。

設問28「保護者の方への電話の対応…」に関しては、可能な限り、丁寧にわかりやすく対応していくことを心がけてまいります。

設問29「学校、学年、学級のルール等…」に関しては、子どもたちの意見等を聴き、教職員と話し合いながらルールの変更等を決めていきたいと思っています。

■授業・評価に関すること

設問	項目の内容	R2	R3	R4
3	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	55	59	58
4	子どもは、家庭学習を自主的に行っている	56	59	55
8	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている	65	66	69
24	通知票は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている	66	71	78
5	子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。	—	44	56
6	子どもは、タブレット端末での学習(デジタルドリルを含む)に意欲的に取り組んでいる	—	41	36

設問3「授業が楽しくわかりやすい」に関しては、本校として肯定的な回答の割合、そうでない回答の割合(31%)を真摯に受け止めなければならないと考えています。今年度、本校の授業づくりのテーマとして「子どもたちが熱中する教室～モチベーションを上げるしかけづくり～」を掲げて学校全体で取り組んできました。どの授業においても、たくさんある情報の中から必要なものだけを選び取る力(情報選択能力)、わかりやすく他の人に伝えることができる力(伝達力)、あきらめることなく自分自身を高めていく力(向上心)など、数値化はできないがこれから求められる能力、いわゆる非認知能力をつけていくことを意識して授業づくりに取り組んできました。今後さらに「授業が楽しくわかりやすい」+「学力向上」に繋がっていくよう学校全体で研究を進めてまいります。

設問4「家庭学習を自主的に…」に関しては、MJT(モーニングスタディ→自主学習→朝テスト)のサイクルを年間で継続して取り組んだこと、テスト範囲(提出課題を含む)を2週間前からアナウンスして「日々の家庭学習を大切に」に取り組んでみました。もう一度、子どもたちに日々の主体的な学習姿勢が大切であることを伝えていきたいと思っています。ご家庭でもご協力いただきますようお願いいたします。

設問8「先生は、子どもの評価を適切・公平に…」設問24「通知表は…」の肯定的な回答の割合が少しずつ上がっています。引き続き、適切(ふさわしいこと)・公平(偏らないこと)を、教職員で確認して子どもの評価にあたっております。

設問5「英語で発表…」に関しては、英語の先生とALTの先生たちで日々コミュニケーションをとりながら授業づくりをしています。授業だけでなく日常の学校生活においてもALTの先生たちが手を振りながら気さくに話しかけ英語でコミュニケーションをとってくれています。本当に和やかな雰囲気があり英語に親しみやすい環境になってきていると思います。

設問6「タブレット端末(デジタルドリルを含む)での学習…」に関しては、新しい生活様式<情報化社会から超スマート社会(Society5.0)>の中で必要とされる能力であることを念頭に置き、さらに活用していきたいと考えています。

■生徒指導・生徒理解・教職員に関すること

設問	項目の内容	R2	R3	R4
7	先生は、子どもたちを十分に理解している	58	64	69
9	先生は、子どものまちがった行動を指導してくれる	73	77	72
13	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	66	69	72
21	学校では、子どもたちの個人情報を守られている	70	75	80
27	子ども同士のトラブル等に対し、丁寧できめ細やかな対応により早期解決が できている	50	52	51

設問7「子どもたちの理解」に関して、肯定的な割合が上がっています。学校または学年全体で子ども理解を深めていくために「第一に聴き、理解したい姿勢」を大切にしています。今後も「聴いて勇気づける」を教職員一人ひとりが意識して子ども理解を進めていきたいと思っています。

設問9「まちがった行動の指導」に関しては、肯定的な回答が下がってしまいました。「子どもたちを理解した上で正しく指導してほしい」と受け止め、教職員一人ひとりがスキルアップするよう子どもたちと日々向き合っていきたいと思っています。

設問13「いじめのない学校づくり」に関しては、学校または学年全体でさまざまな題材を通して取り組んでいます。しかし、いじめの原因はさまざま、そこには、辛い思いをした人、辛い思いをさせてしまった人、傍にいた人がいます。学校としては、下記の設問14「生命を大切にする態度を…」設問15「人権を尊重する姿勢で…」の人権教育を大切にしながらすべての教育活動で「いじめをしない」感性を育てていきたいと思っています。

設問27「トラブル等に対し、丁寧な対応、早期解決が…」に関しては「わからない」という回答(37%)が多数ありました。トラブルの解決については、「(明日に)関係する子どもが互いに普通に学校生活を送れるよう」を目標に丁寧な対応を心がけてまいりたいと思っています。

■人権教育・オンライン・小中連携などさまざまなとりくみに関すること

設問	項目の内容	R2	R3	R4
14	学校は、子どもに生命を大切にする心や態度を育てようとしている	66	72	73
15	学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている	65	73	75
16	学校は、オンラインを活用したとりくみ(授業・懇談・補習など)を積極的に進めている。	73	85	80
17	学校は、ICT機器の取り扱いについて、子どもに丁寧に説明している。	50	68	64
25	学校は、小中連携を行っている。(箕面市は小中連携を進めています。)	—	56	64

設問14・15に関しては、本校は「学力」・「生活」・「仲間」(「認め合い、高め合い、学びを楽しめる子」の育成)の三本柱に沿って教育活動を行っています。そのなかで人権教育は必要不可欠であり、いじめやさまざまな差別の問題などを自分事と受け止め、自らがどのように行動するのかを考えられるよう、日々の教育活動を丁寧に進めていきたいと思っています。

設問16・17に関しては、今年度はコロナの感染急拡大の恐れが下がってきた事実もあり、オンラインを活用したとりくみは少し減少したことを感じています。しかし、学校生活においてICT機器を活用する頻度は増えています。子どもたちにICT機器の取り扱いをはじめネットリテラシー(SNSや画像、個人情報に関する注意も含む)について丁寧に説明していきたいと思っています。

設問25「小中連携」に関しては、本校から保健体育の教員が北小・萱野小・萱野北小の5,6年生の体育の授業で小学校の先生と一緒に授業を行っています。また、校区(かやの幼稚園・萱野保育所・3小学校・二中)の全体研修や授業づくり・生徒指導・支援教育・人権教育を主に担当している先生たちが情報連携を行っています。また、9月の文化祭終了後に、二中生が3小学校の5,6年生対象にイベントを企画して開催しました。生徒たちの企画力は頼もしい限りで、今後も一緒に取り組むことができればよいと思っています。

■危機管理・施設管理に関すること

設問	項目の内容	R2	R3	R4
18	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に周知されている。	93	92	92
19	学校の施設・設備は学習環境において満足できる。	74	70	73
30	学校は新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行っている。	71	79	81

今後とも、自然災害や新型コロナウイルス感染に関する対応の情報発信は、学校メール（ライデンメール）及びトモリックスからお伝えいたします。また、子どもたちが安心して学校生活が送れるように、日頃から施設・設備の点検をして対応を心がけてまいります。